

# 2月

# 教会教育室だより

宣教部 教会教育室 2023.2.14 発行



日本バプテスト連盟のホームページでご覧いただけます



## 神奈川バプテスト連合教育部 教会教育研修会 報告

三浦あや（藤沢教会）

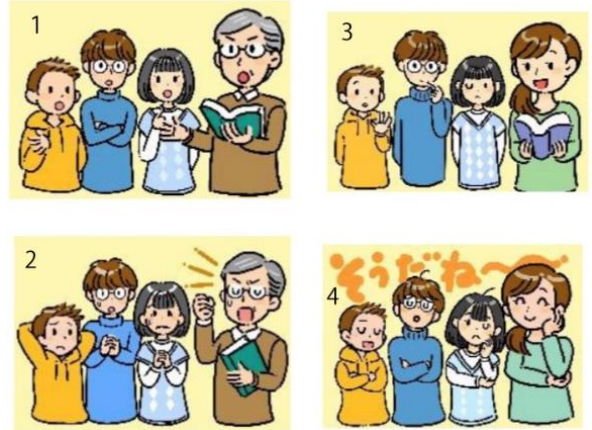
2023年1月9日(月祝)10~12時ふじみキリスト教会にて、教育研修会を行いました。参加者は対面12名、zoom33名合計45名。テーマは「みことばにワクワクする！対話が生まれる教会学校」で、発題は富田直美先生（市川大野教会）でした。

今回の研修会で期待したことは、コロナ禍にありそれぞれの教会学校の現状を知り、教会学校クラス参加者との関係性・対話を見つめ直すことです。

発題では、ついせっかちに結論づけたくなるCSリーダーを例としたロールプレイも交えて、わかりやすく対話の重要性を教えられました。私たちは教会学校を行う時に、どうしても学校教育の「正解探し」的な思考に慣れ、つい結論を早めてしまいます。しかし今や学校教育も「基礎学力を定着させることや、言われたことをきちんとやり遂げる」ことに焦点を当てた教育から、「個々人の思考力や想像力を養うこと」を励ますような教育へと変わりつつあり、「いかに話し合いによって考えるか」という思考が大切と語られました。答えのない不確かな状況に耐え、対話を続けることを目的とし、多様な声に耳を傾ける、そんな開かれた対話が生まれる教会学校を「ワクワク」しながら目指したいと感じました。また金丸真先生、高橋秀二郎先生から2023年度から始まる聖書教育誌の内容紹介もありました。対面では久しぶりの教育研修会でしたが、今回参加されたそれぞれの教会学校が守られて、また来年度以降もCSクラスの活動が神様に導かれていくことを願います。（発題部分を3月末までYouTubeで限定公開しています <https://youtu.be/OI4YQ7cWAZM>）



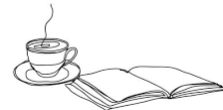
## スキットで考えてみるクラス



- 1 真面目な教師。聖書の話をはっきりと伝え生徒に意見を求める。
- 2 予想外のメンバーからの質問に困る。つい話をまとめ結論づけてしまう。
- 3 やさしいリーダー。メンバーの素朴な意見を楽しみにしている。
- 4 メンバーから素直な感想が出る。信じるってなんだろう？と皆で考える。そうだね〜と共感。分からないことを楽しんでいる様子

## 教会教育室を閉じるにあたって

富田直美（教会教育室室長）



教会教育室の室長に着任してすぐに重要課題として与えられた課題の一つは「ハラスメント」について学ぶことでした。学ぶうちに「マイクロアグレッション」という言葉を知りました。それは日常の何気ないシーンに潜む「見えない差別、意図していない差別」などを指す言葉です。

相手を傷つけたいと思って会話をしているわけではないのに、相手の人にとっては「とても傷つく言葉」となっていることがあります。また、傷つけようという意志よりも、助けられない形で現れやすくもあります。無意識的なバイアスは、一見些細なものでも有害な影響を及ぼす場合があることを知りました。例えば、災害時にマイノリティーの人への救援が後回しになるようなことは想像できる一つです。もっと日常的な振る舞いの中にも、たくさん無意識の心理として存在します。

ある日のワークショップで、日常の中に埋め込まれている言葉について整理してみたら、実に多くの言葉に潜んでいることがわかりました。「箱入り娘」という言葉はあるのに、「箱入り息子」とは言わない。「女性の社会進出」とは言うけれど「男性の家庭進出」とは言わない。「ワーキングマザー」とは言うけれど「ワーキングファザー」という言葉を聞くことはありません。「肌色の絆創膏」と表示された肌色って何色でしょうか？

私の中にたくさんの差別が存在していることに気づいていく学びとなりました。そして学んでいくうちに、私は葛藤を引き受けたくないの、みんなが使っている言葉や、社会の一般的な振る舞いを参照して、葛藤から逃れようとしているのだということがわかってきました。まだまだ気づけていないこともあり、簡単には変わらないけれど、変わりたいと願う者となりました。そして、そのことを話題にしながら仲間を増やす必要を感じています。なぜなら、「マイクロアグレッション」について説明して理解してもらうことは難しいけれど、対話をしていく中でお互いに気づいていくことができると思うからです。自分が新しい気づきに出会う時、聖書から聞こえてくるメッセージも変わります。

新しい『聖書教育』は、対話が生まれる『聖書教育』です。2023年度からは、『聖書教育』を題材にして、教会学校が対話の場として用いられていくことでしょうか。研修会では、こうしたことを想定して、対話の定義、話し合いの作法や、対話を開く鍵などをお伝えしてきました。ぜひ、興味のある書物を手にとって、皆さまも学んでみませんか。

- ◆『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』  
テラルド・ウィン・スー著  
マイクロアグレッション研究会訳  
明石書店
- ◆『マイクロアグレッションを吹っ飛ばせ』  
渡辺雅之著 高文研
- ◆『差別はたいてい悪意のない人がする』  
キム・ジハ著 尹怡景訳 大月書店
- ◆『多文化社会で多様性を考えるワークブック』  
有田佳代子・志賀玲子・渋谷美希[編著]  
新井久容・新城直樹・山本冨里[著]  
研究社
- ◆『あなたを閉じこめるすくい言葉』  
森山至貴著 WAVE出版
- ◆『話し合いの作法』  
中原 淳著 PHP ビジネス新書
- ◆『聞く技術 聞いてもらう技術』  
東畑開人著 ちくま新書
- ◆『バナナの魅力を100文字で伝えてください』  
柿内尚文著 かんき出版

